

(英語版)

(アラビア語版)

(目次)

見果てぬ平和 ― 中東の戦後75年(九十二)

第四章・中東の戦争と平和(六)

九十二 平穏な市民生活に忍び寄る長期独裁政権の影(三―三)



それぞれが独裁者になる過程は各国の政治的・社会的状況や権力奪取の方法等によりそれぞれに異なる。しかし中東の独裁者たちにはいくつかの共通点もある。リビアのカダフィ、シリアのハフイズ・アサド(父親)、エジプトのムバラク、イエメンのサーレハ、スーダンのバシルはいずれも軍人である。中東では軍隊経験こそが独裁者への最短コースのようである。

その中でリビアのカダフィを例に取ると、彼は1969年にクーデタでイギリス王朝を倒して権力を掌握、国名を大リビア・アラブ社会主義人民ジャマヒリヤ国とした。ジャマヒリヤとは直接民主主義の意味であり、彼は人々が彼のことを大統領と呼ぶことを許さなかった。そこで人々は彼を最高指導者と呼び、彼自らは敬愛するエジプトのナセル大統領の肩書が大佐であったため、自らを「大佐」と称した。彼は飴と鞭を使い分けて国内の部族勢力を従わせ、一方絶妙の世渡り術を駆使して激動する国際社会を生き抜いたのである。しかし最終的には隣国チュニジアの「アラブの春」の余波を受け内戦の中で殺害され四十二年にわたる独裁の幕を閉じたのであった。

(続 く)

荒葉 一也

E-mail: Arehakarazuyal@gmail.com